



■ 菌床* からクリタケの発生に成功しました



菌床から発生したクリタケ

近年、キノコ類の市場価格は低迷し、新たなキノコの栽培技術の開発を望む声が多く寄せられています。このため、クリタケに着目し、2003年から研究に取り組み、**菌床シイタケの栽培施設を利用したクリタケの菌床栽培を確立**しました。

発生操作、覆土材料などさまざまな条件で試験をした結果、**菌床シイタケ培地と栽培施設が利用でき、シイタケとほぼ同じ作業スケジュールで栽培できる**ことを実証しました。

*：菌床とは、オガ屑などに栄養源を混ぜて固めた培地のこと。この培地を養分にしてキノコを育てます。

■ クリタケってどんなキノコなの？

クリタケは、写真のように傘の色が栗の色に似ていることから、この名前が付いたと言われています。

発生時期は、10月中旬から11月中旬とキノコシーズンの最後を飾るキノコです。味が良く、歯切れの良さなどから、天ぷらやすき焼き、鍋物などさまざまな料理に合います。

岐阜県全域に分布し、『モタセ』の名で古くから親しまれています。

人工栽培は、原木が主流です。原木栽培は、キノコを収穫するまでに1年半以上と長い期間がかかることから、短期間に栽培できる菌床栽培技術が望まれています。



岐阜県内で発生した野生のクリタケ



■ クリタケ発生には発生操作が重要です

クリタケを発生させるには、**発生操作**(下図)が必要です。

栽培袋の上部をカットします。その後、培地表面を厚さ1cm程度掻き取り、**鹿沼土**を覆土します。散水は、週に2~3回行います。



培養終了後の菌床



栽培袋の上部をカットする



鹿沼土を覆土する



菌掻きを行う

■ クリタケ栽培は菌床シイタケ栽培施設で可能です

菌床シイタケ培地と栽培施設が利用でき、シイタケとほぼ同じ作業スケジュール(下図)で栽培ができます。

